

◆畑の案内人とは

今日、農畜産物を生産する現場と生活・消費する人たちの距離が広がってしまい、子どもだけでなく大人を含めた多くの方が、自分の食生活が自然の恩恵や「食」に関わる人々の活動に支えられていることを、農業が一大産業であるここ音更町においても実感しにくくなっています。

こうした中で、食料の生産から消費までの「食」に関する様々な体験活動を行うことは、「食」に関する知識と「食」を選ぶ力を習得し、健全な食生活を自ら行うことが出来る人間を育てる上では大変有効なことです。

単なる農業体験だけでなく、調理・加工・味わう等の食体験や、地域の食文化・歴史、地産地消など、様々なことを消費者に知ってもらう。そんな活動を行っていく必要があります。

その活動を行う上で一番重要なことは、農業者が自らの口と行動で発信することです。それを担うのが「畑の案内人」なのです。

「畑の案内人」になろうとする農家の方は、消費者にとって安全で楽しく、且つ心に残る農業・農村体験となるように、人を引きつける話し方や農作業のプログラム、農場周りの安全チェック等を習得することが重要です。

音更町食のモデル地域実行協議会では、そのお手伝いをしています。

◇畑の案内人フォーラム◇

「畑の案内人」を多くの方に知ってもらうため、十勝で畑ガイドツアーを実施しているいただきますカンパニーのいのくち氏とまちむら交流きこうの吉岡氏を講師にお招きし、平成26年2月21日にふれあい交流館にてフォーラムを実施しました。その内容を簡単に紹介します。

①「十勝・おとふけにはこんなに人が呼べるよ！」 講師:いただきますカンパニー 代表 いのくちふみこ氏



今「あるもの」を「どう見せるか」が大事である。十勝では、手ぶら農業体験、農業青年団体の活動等もあるが、一般の観光の方を受け入れる体制が畑に関しては乏しいのではないかと思います。そこを変えていく必要がある。また、観光客を受け入れる際には「この期間は無理というのは好まれない」ということや「何があっても最低減のサービスを提供する」ということを念頭に入れておくことが重要である。

十勝は農業がメインであり、副業で受け入れをしているというよりは伝えたいことがあるから受け入れているというのが特徴である。

十勝の農業を伝えていくこと、生産者には一生懸命作っていただくこと、それを伝えることが、食卓を変えることにつながり、ひいては農業を存続させていくことにつながる。畑と食卓がつながっていることを実感できる仕組みをつくと良い。

体験することで、考え方が変わり、きちんと選ぶようになる。十勝からそういうことを発信していくことに意味がある。

音更の魅力は色々あるが、農場の魅力と組み合わせで企画すること、素材をどう価値にしていくかを考えることが大事である。これらのことを忘れずに、十勝の宝を発信していきたい。

②「来た人には安心して楽しんで帰ってもらおう！」 講師:まちむら交流きこう 地域活性化チーム長 吉岡靖二氏



畑の案内人を目指すには、その個人の人間性を好きになってもらう必要がある。体験やガイドはそれ自体が目的だというわけではなく、音更を理解し好きになってもらうためのものである。適した世間話のネタをもっているかを意識して、交流に臨むことが大事である。世間話においても、それ自体が目的なのではなく、世間話を通して場を和ませてガイドしやすくするためのものである。そういうスキルが必要である。

農村は、趣や美観、料理、笑顔、温もり、会話等が求められているため、そこを意識して提供しなければならない。旭山動物園

は、地域の市民のための施設であり、市民のために作ったら、外の人も喜んだ。「まちづくり」はその町の人のために行い、それをめざして外から人が来る構図を考えなければならない。

人と話をし、ガイドとして何か伝えようとするなら、きちんと声が出ないといけない。発声が大事であり、口の形と言葉が合わさってないと滑舌が悪くなるから注意していただきたい。また、アクションをつけることも大事である。声にトーン、身振り手振りを加えることで心がつながっていく。

ガイドは、地域の看板だという意識を持ち、心地よく地域のことを知ってもらうこと、話し方においては、相手の立場に立つことを意識してほしい。